

科目名	野菜	単位数	2 単位	学科・学年	農業総合科 1 年																																																			
使用教科書	野菜 実教出版			副教材等																																																				
学習目標	<p>野菜は人体の成長や健康維持、増進に欠かせない大切な食べ物です。日頃店頭に並んでいる野菜に目を向けて、以下の点について勉強します。</p> <p>①「野菜って何」、「どうして野菜を食べるの」から始まり、「どんな野菜が、いつ、どこで生産されるか」、「野菜が収穫されてから、食卓までどんな旅をしてくるか」などを最初に学びます。</p> <p>②一粒の種（種まき）から収穫に至るまでの生育の様子を勉強します。</p> <p>③品質の良い野菜を生産するためには、野菜の性質にあった環境をつくるのが大切です。光や温度・土・水・肥料などの栽培環境をどうすればよいのかを考えていきます。</p>																																																							
学習評価	<p>○ 次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとつまとめり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">①関心・意欲・態度</td> <td colspan="4">通常の授業では野菜に興味をもち、積極的に授業へ参加しているかどうか、また実習を伴う体験的な授業では主体的に取り組んでいるか。</td> </tr> <tr> <td>②思考・判断</td> <td colspan="4">野菜全般（生理的特性、栽培方法、栽培環境、流通等）について理論づけて理解できているか。</td> </tr> <tr> <td>③技能・表現</td> <td colspan="4">各野菜の生理形態をスケッチし考察ができるか。また、理論づけて考えたことを頭の中で整理し言葉として表現できているか。</td> </tr> <tr> <td>④知識・理解</td> <td colspan="4">勉強した内容をノートに書き、また復習プリントなどで知識として理解できているか。</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> <td>評価方法\観点</td> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習状況観察</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>自己評価の実施</td> </tr> <tr> <td>プリント教材</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>復習プリント</td> </tr> <tr> <td>ノート提出</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>学期に1、2回提出</td> </tr> <tr> <td>ペーパーテスト</td> <td>—</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>確認テスト・定期考査</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※表中の◎は観点の中でより重視するところです。</p>					①関心・意欲・態度	通常の授業では野菜に興味をもち、積極的に授業へ参加しているかどうか、また実習を伴う体験的な授業では主体的に取り組んでいるか。				②思考・判断	野菜全般（生理的特性、栽培方法、栽培環境、流通等）について理論づけて理解できているか。				③技能・表現	各野菜の生理形態をスケッチし考察ができるか。また、理論づけて考えたことを頭の中で整理し言葉として表現できているか。				④知識・理解	勉強した内容をノートに書き、また復習プリントなどで知識として理解できているか。					評価方法\観点	①	②	③	④		学習状況観察	◎	○	○	—	自己評価の実施	プリント教材	—	○	○	◎	復習プリント	ノート提出	◎	○	○	◎	学期に1、2回提出	ペーパーテスト	—	◎	◎	◎	確認テスト・定期考査
①関心・意欲・態度	通常の授業では野菜に興味をもち、積極的に授業へ参加しているかどうか、また実習を伴う体験的な授業では主体的に取り組んでいるか。																																																							
②思考・判断	野菜全般（生理的特性、栽培方法、栽培環境、流通等）について理論づけて理解できているか。																																																							
③技能・表現	各野菜の生理形態をスケッチし考察ができるか。また、理論づけて考えたことを頭の中で整理し言葉として表現できているか。																																																							
④知識・理解	勉強した内容をノートに書き、また復習プリントなどで知識として理解できているか。																																																							
	評価方法\観点	①	②	③	④																																																			
	学習状況観察	◎	○	○	—	自己評価の実施																																																		
	プリント教材	—	○	○	◎	復習プリント																																																		
	ノート提出	◎	○	○	◎	学期に1、2回提出																																																		
	ペーパーテスト	—	◎	◎	◎	確認テスト・定期考査																																																		
履修上の注意	<p>(1) 授業形態は座学が中心ですが、野菜の生育状況によっては実習を行うこともあります。</p> <p>(2) 毎学期に1、2回ノート提出があります。毎回の授業ではきちんとノートを書くようにしましょう。また文具として鉛筆の他に、赤ペンや蛍光ペンを準備して下さい。</p> <p>(3) 物事を理論づけて理解していくことが大切です。暗記の仕方等についても説明をします。</p> <p>(4) 1学期、2学期、3学期の成績を総合し、年間の学習成績として5段階評価をします。</p>																																																							

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
1 学 期	4	1章 野菜の種類と生産 1 野菜の種類と食品としての利用 1 野菜の種類と利用 2 野菜の分類 3 フードシステムについて	26	○野菜の種類やその伝播について学びます。 ○園芸学的、植物学的、利用部位による分類について学びます。 ○野菜の生産、消費の動向について学びます。 ○ほ場で栽培している野菜の生育観察をします。 ○植物の生理学について図を交えながら詳しく学びます。	【学習状況観察】 【自己評価】 【ノート提出】 【1学期中間試験】
	5	2 野菜の生産と消費の動き 1 消費の動向 2 生産と供給の動向 3 野菜生産と自然環境			
	6	2章 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 1 野菜の生育と生理 1 野菜の生育 2 種子と発芽 3 茎と葉の成長 4 光合成のしくみと物質生産			
	7	5 根の発達と肥大			
2 学 期	7	6 根菜類の花芽分化と抽だい	28	○野菜の栽培環境について植物の生育条件と絡めて学びます。(イチゴ、ダイコン) ○露地栽培やハウス栽培、養液栽培の特性について学びます。	【学習状況観察】 【自己評価】 【ノート提出】 【2学期中間試験】
	9	7 果菜類の花芽分化と果実の発育 8 休眠について 2 野菜の栽培環境と生育調整 1 光環境とその調節			
	10	2 温度環境とその調節 3 湿度環境とその調節 4 風・ガス環境とその調節 5 地下部の環境とその調節			
	11	3 人工環境における栽培技術 1 露地栽培 2 施設を利用した栽培 3 養液栽培			
	12	4 植物工場			
3 学 期	12	3章 野菜の育苗 1 育苗の目的と方法 1 良い苗の条件	16	○育苗の目的や良い苗の条件、方法について学びます。 ○育苗技術について実際に接ぎ木など実習を交えて学びます。	【学習状況観察】 【自己評価】
	1	2 育苗方法 2 育苗技術の実際と応用 1 床土とその作り方 2 種まきと育苗管理			
	2	3 接ぎ木 4 セル成型苗とその利用			
	3	5 バイオテクノロジーによる苗の育成・利用			
合計時間数			70		